

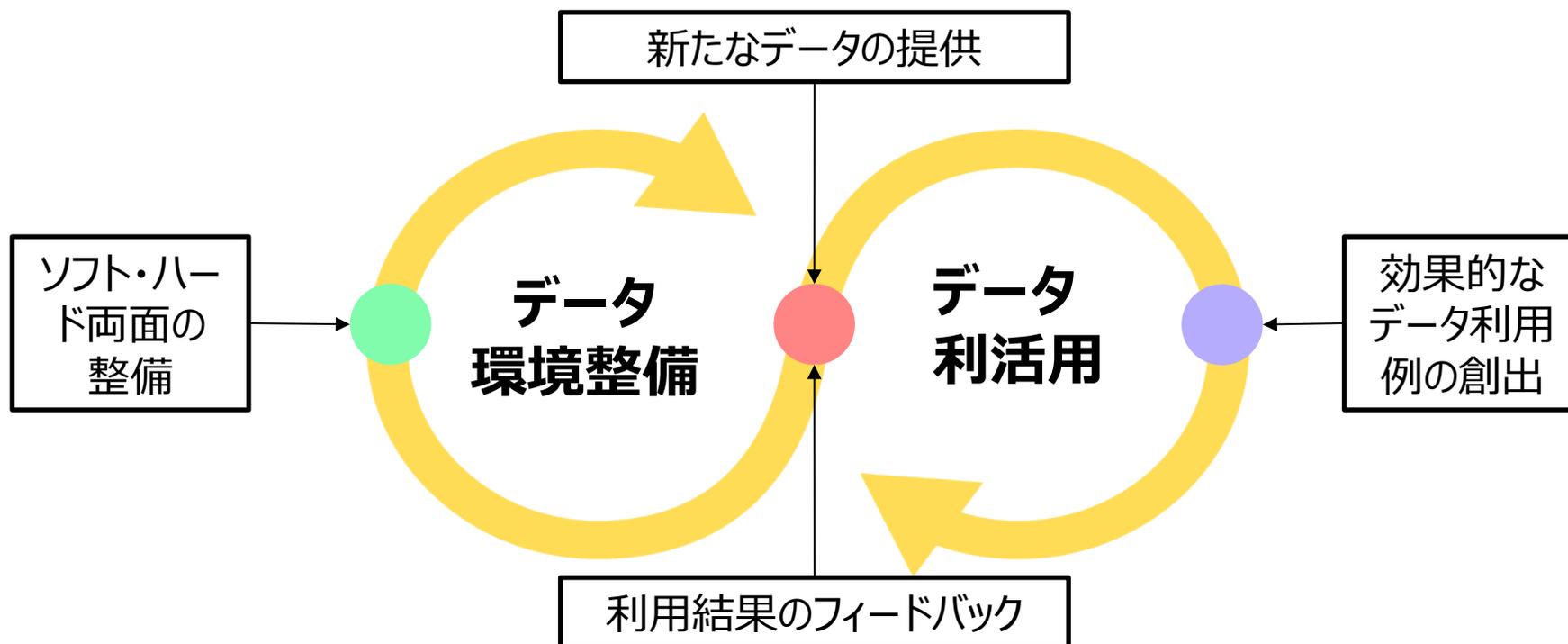


データ利活用の課題と提案

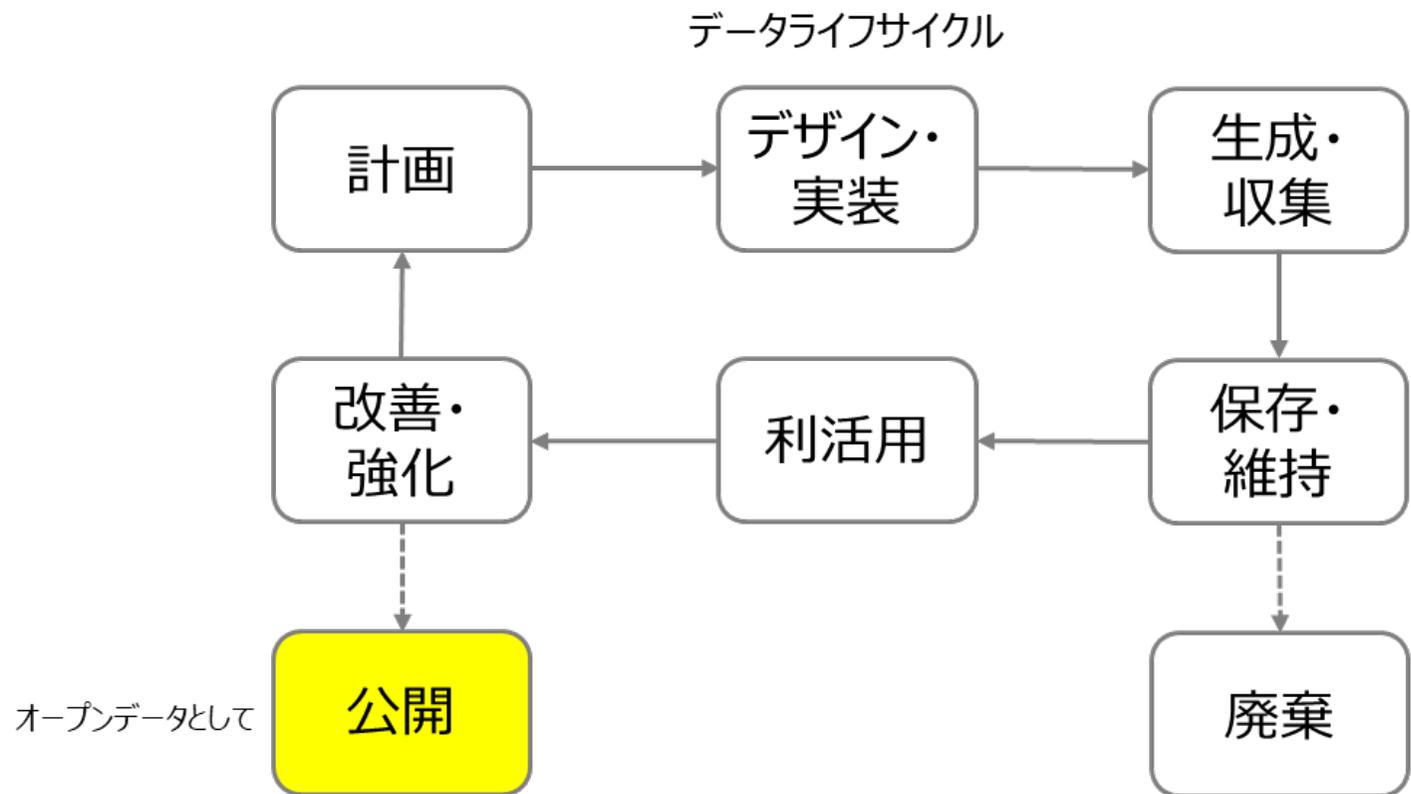
令和7年4月1日

広島県総務局
DX推進担当部長
安藤 良将

- データ環境が整備されることにより、データの品質・信頼性・可用性が向上する。
- データの利活用が進み、データを使った新しい価値が創造される。
- 新たなデータの蓄積が進む。



- EBPMやAIの活用のために、**データの重要性が増大**している。
- データの利活用は**データライフサイクルを循環**させることで可能となる。
- そのために、データの**①ガバナンス・マネジメント**、**②組織文化の醸成**、**③人材育成**を行う必要がある。



DMBOK2データライフサイクルを参考に広島県が編集

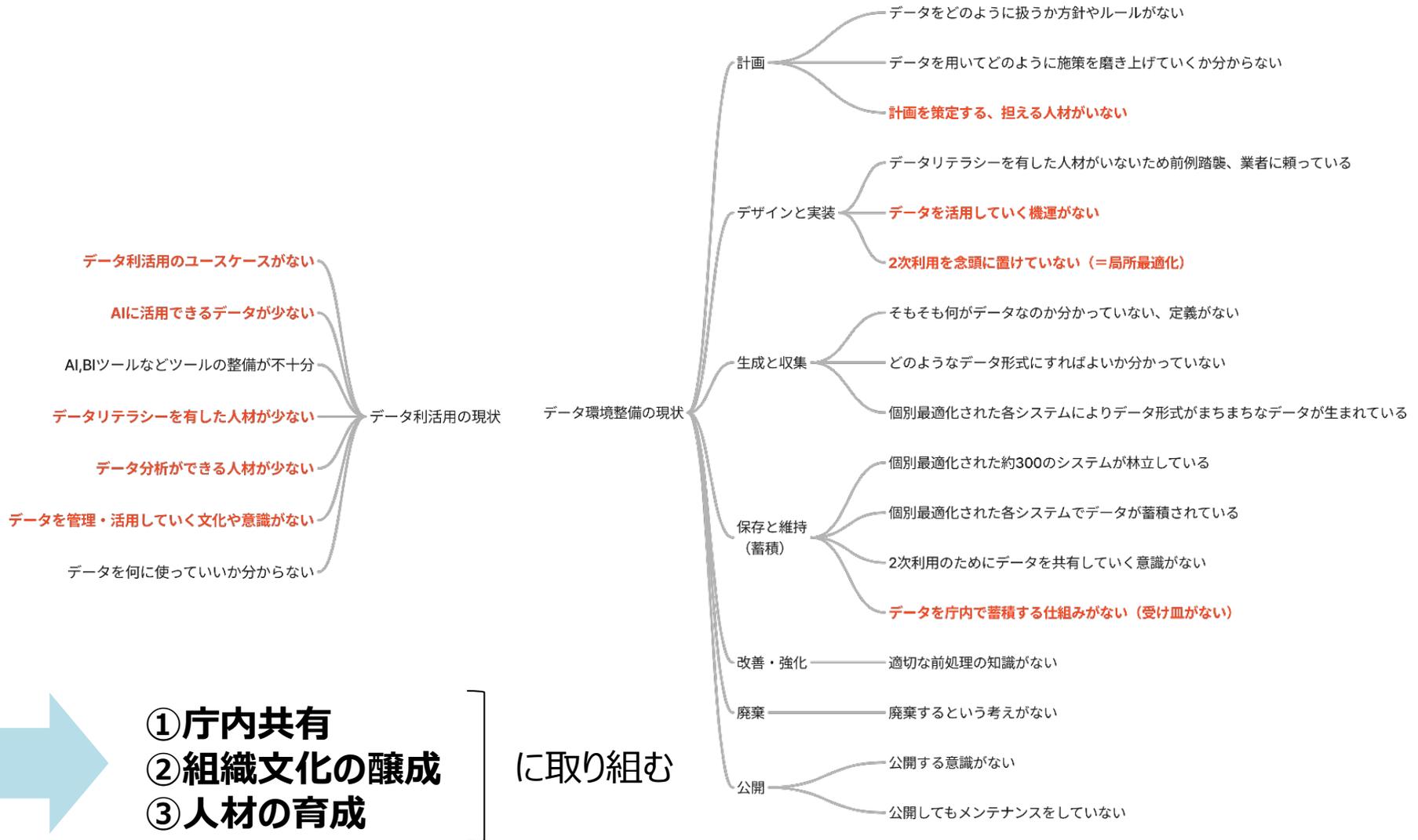
- ✓ 構造化データ
 - ✓ 非構造化データ
 - ✓ ひとつの部署内のみで利用しているデータ
 - ✓ 活用されていない生データ
- 様々なデータが庁内に存在するが、これらのデータは**全て資産**であると考えべき。
 - また、データライフサイクルが循環することによって、**データの資産価値が向上**していく。
 - 行政は有形資産と同様に、**データ資産も管理していくべき**ではないか。



元気、
美味しい、
暮らしやすい
ENERGY OF PEACE
ひろしま

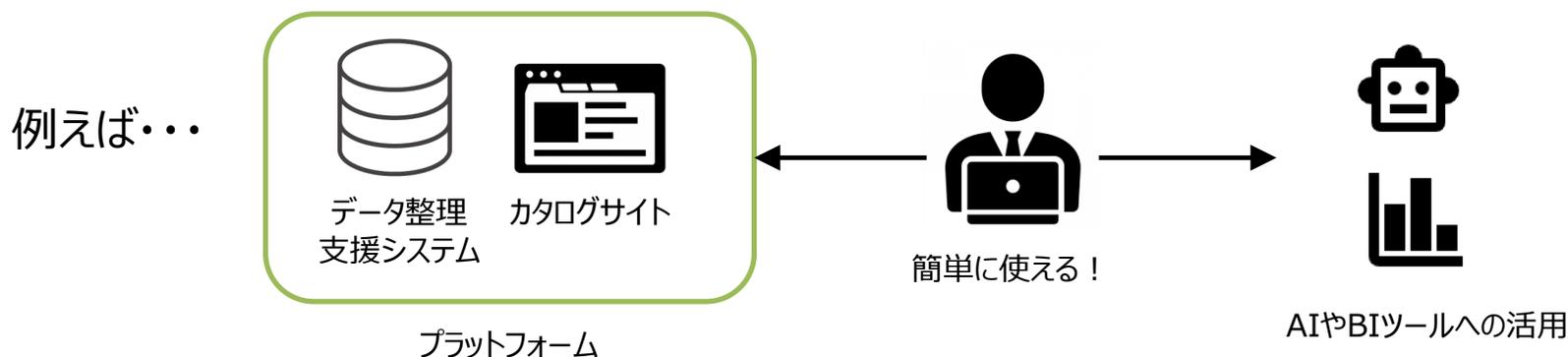
庁内の現状と取組の方向性

データを取り巻く庁内の現状



①データの庁内共有（ガバナンス・マネジメント）

- データマネジメントのための体系的なドキュメントや手順などを整備することが重要であるが、それを実行に移す際の**手間は極力省くことが望ましい**。
- また、データの一覧性や検索性に優れ、かつ**データの更新や整備が簡便であることが望ましい**。
- 庁内データを実際に見て触ることにより、データの有用性を理解し、データ利活用の機運醸成につなげることが重要ではないか。



②データに関する組織文化

- データ利活用のユースケースを広め、機運を向上させることが重要。
- 局所最適ではなく、全体最適を見据えたデータの取り扱いや利活用の意識を浸透させる必要があるのではないか。



データを活用していく機運が低い。

データを使って何ができるのかイメージが湧いていない。

うちの課は関係ない、データがないからと考えている。

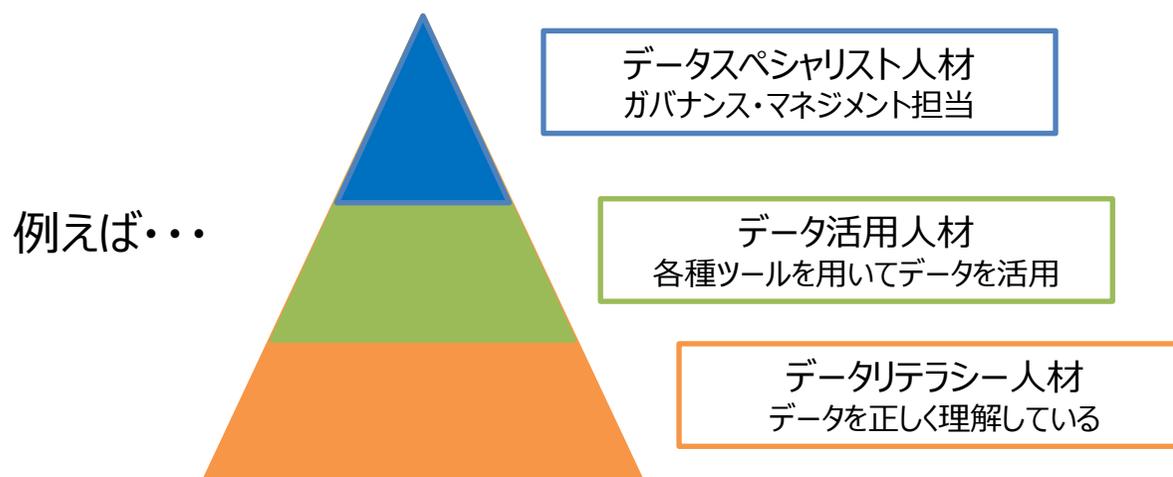
データ分析が業者任せになっているため、ナレッジが溜まらない。

取得したデータや成果物を部署間で共有する意識がない。

経験・勘・度胸を重要視している。

③データ人材の育成

- データライフサイクルの循環を担う人材を育成するため、各シーンにおける人材像を明確にし、人材像ごとの研修を実施することが重要ではないか。
- その中でも「データとは何か」というような、基礎的な研修内容は共通化できる余地が大きいいため、全国一律の人材育成があると良いのではないか。





元気、
美味しい、
暮らしやすい
ENERGY OF PEACE
ひろしま

目指す姿を達成するために必要なこと

- 限られたリソースの中で、行政サービスを維持し続けるためには、**生成AIをはじめとするAIを活用し、さらなる効率的な仕事の進め方が必要。**
- 一方で、課題として「AI生成物の正確性への懸念がある」という回答が最も多く、「**ハルシネーション**」と呼ばれる**誤情報生成の問題**などが、**正確性が求められる自治体業務の障壁**となっていることが分かっている。
- この解決策のひとつとして、**特定のデータセットに基づいてモデルを調整し情報を生成する技術であるRAG**（Retrieval-Augmented Generation）がある。この技術を活用し、各自治体が保有する庁内データなどをデータセットとして取り込むことで、AIの正確性と有用性が向上する。
- しかし、**自治体内のデータセットが十分整備されていない、データ連携基盤の相互接続などの課題**がある。

データクレンジング

- これまでのデータ整備の考え方は「人間が理解しやすい」観点から実施されており、AIに読み込ませるために最適な構造になっていない。
- 具体的には、データの保存形式がまちまち（PDF、ワード、エクセル）であり、内容も文章主体の報告書であったりする。また、いわゆる「ネ申エクセル」など、AIが読み込む前提になってないものも多々ある。
- これら「非構造化データ」から「構造化データ」に変換する作業は現在は人手をかけて行う必要があり、データ利用が進まない一因となっているのではないか。

(例) 広島県における統計情報のエクセル

市区町, 人口集中地区			人口			面積(k㎡)		人口密度		県全体に占める割合(%)		一般世帯						市区町番号	
市区町, 人口集中地区			令和2年(2020)			平成27年(2015)	平成27年~令和2年の増減(Δは減少)	令和2年(2020)	令和2年(2020)	令和2年(2020)	令和2年(2020)			平成27年(2015)			平成27年~令和2年の増減(Δは減少)	市区町番号	
			男	女	性比1)	増減数(%)	2)	人口	面積	人口	面積	世帯数	世帯人員	1世帯当たり人員	世帯数	世帯人員	1世帯当たり人員	増減数(%)	
7	広島県		1,357,156	1,442,546	94.1														
8	100 広島市		579,415	621,339	93.3														
9	101 中区		67,660	75,039	90.2														
10	102 東区		56,872	62,481	91.0														
11	103 南区		71,544	74,261	96.3														
12	104 西区		91,127	99,105	91.9														

市区町村, 住居の種類・住宅の所有の関係別普通世帯数, 普通世帯人員, 1世帯当たり室数及び1世帯当たり畳数〔昭和45年(1970)〕																	
住居の種類(2区分), 住居の所有の関係(5区分)		世帯数	世帯人員	1世帯当たり人員	1世帯当たり室数	1世帯当たり畳数	1人当たり畳数	世帯数	世帯人員	1世帯当たり人員	1世帯当たり室数	1世帯当たり畳数	1人当たり畳数	世帯数	世帯人員	1世帯当たり人員	1世帯当たり畳数
34 広島県																	
市																	
部																	
普通世帯		669,574	2,319,424	3.46	4.16	0.83	23.4	6.7	405,046	1,356,029	3.35	3.84	0.87	20.9	6.2		
出生時~昭和39年		339,029	1,497,895	3.75	4.82	0.78	27.7	7.4	216,683	797,873	3.68	4.53	0.81	25.0	6.8		
昭和40年以降		270,142	820,283	3.04	3.18	0.96	17.0	5.6	188,132	557,510	2.96	3.04	0.97	16.1	5.4		
住宅		668,091	2,314,807	3.46	4.16	0.83	23.4	6.8	403,929	1,352,549	3.35	3.84	0.87	20.9	6.2		
出生時~昭和39年		398,660	1,496,683	3.75	4.82	0.78	27.7	7.4	216,414	796,989	3.68	4.53	0.81	25.1	6.8		
昭和40年以降		269,028	816,878	3.04	3.18	0.95	17.1	5.6	187,284	554,914	2.96	3.05	0.97	16.1	5.4		

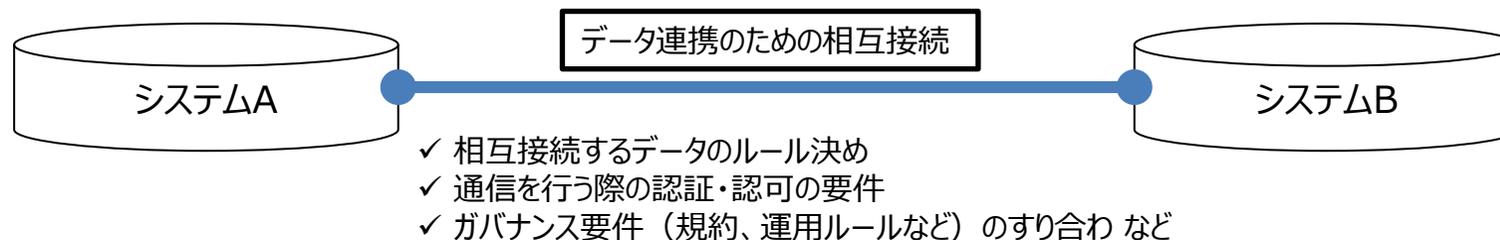
データ連携基盤間におけるデータ連携のための相互接続

- データ連携基盤の相互接続においては、推奨モジュール（FIWARE Orion等）を導入するだけでは実現できず、推奨モジュール以外にもすり合わせが必要となる項目（技術面、ガバナンス面）が多くある。

例)

- ① 標準データセットの整備は、GIF（政府相互運用性フレームワーク）だけではカバーしきれないものもあり、各自治体においてデータセットの標準化を行う作業が必要となる（各自治体で類似した種類のデータセットの標準化を行うのは非効率）。
- ② データ提供事業者・サービス提供者等の認証・認可と適切なアクセス制御の要件を検討する必要がある。
- ③ 基盤が既に有しているガバナンス要件を基に、双方の基盤のガバナンス要件のすり合わせが必要となる。

- これらの整理は各自治体が独自に行うことで様々な規格が乱立する恐れがある。
- データ流通の真正性・簡便性を担保する必要があるのではないか。



- 「データを使って結局何ができるのか？」という問いにしばしば遭遇する。
- AIやBIを使えば何かができそうだが、という兆しは感じているが、具体的に不明なため、データの整備にも重点がおかれたいのではないか。
- まずは、小規模でデータライフサイクルを回し、具体的なアウトプットの創出を促すことが重要ではないか。